

北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第9回 北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日 時：平成21年1月15日（木）午後1時30分～
3. 場 所：北杜市役所 東館特別会議室
4. 出席者：
（委員）小澤龍一・小泉 徹・堀内 弘・藤原香代子・中澤功允・三井善成
小尾隆一・小宮山藤雄・清水正之・原 誠・中山英毅・原 堅志
大柴美香・秋山治雄・小宮山英人・由井峰雄・大島正道・小澤三月

（事務局）井出教育長・小林教育次長・進藤教育総務課長・伊藤学校教育課長・
原生涯学習課長・野牛嶋教育総務担当リーダー・中込学校教育担当リ
ーダー・野口教育総務担当・大町教育総務担当
5. 議 題 1) 資料の確認
2) 小中学校適正配置
3) その他
6. 傍聴人の数：8名

— 13時34分開会 —

（事務局） 開会に先立ち互礼をしたいと思います。

— 互礼 —

（議長：小澤会長） 本日は傍聴希望者が8名おりますがよろしいでしょうか。

（委員全員） 異議無し

— 傍聴者8名入室 —

（議長：小澤会長） 事務局、資料の確認をお願いします。

（事務局） 今会議の議事録署名人を大柴委員と小宮山(英)委員に指名します。
資料は、「富士見町中学校統合計画」および「大月市立小・中学校の適正規模・適正配置等について答申」の2点を事前に送付してあり、本日配布しました資料は、第8回議事録の正誤表及び本審議

会の名簿です。

(議長：小澤会長) 少子化に伴い子供達が揉まれ合う環境が乏しくなっていますが、それを補う環境作りを第一義に考えなければなりません。通学区域の問題があり、二律背反を審議し結論を出さなければなりません。北杜市は広域な行政区域であり、どのように「学校」という拠点作りをしていくかがこの審議会に与えられた使命と考えます。

では、前回詰め切れなかった論議を深めていきます。「旧町村ごとではなく生徒の実態に見合った弾力的な通学区域を今後設定していく」この所は前回確認しましたが、「1ないし2云々」の所を踏み込んで論議していただき、中学校の通学区域にも絡む事なので、その後分科会形式に移りたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員全員) 異議無し

(委員) 私が「1ないし2校」を前提に人数を試算した資料を提出したいかがでしょうか。

(議長：小澤会長) 資料として配付してはどうでしょうか。

(委員) 問題になるのは高根と長坂です。高根についてはケースAとして清里小はそのままそれ以外を1校に、ケースBとして清里小・高根北小・高根東小・高根西小を1校にしました。また、A' B'として五町田地区を秋田小にした場合のそれぞれのケース。長坂については現在の4校を1校にという考え方で、平成20年度と26年度の人数で試算してみました。ケースCとして小泉小と秋田小、長坂小と日野春小を統合する場合など、それぞれのケースごとに表にしてみました。参考にいただければと思います。

(議長：小澤会長) 非常に細かいところまで考えた資料だと思いますが、現行の通学区域が基準になっており、旧町村の壁を取り払って弾力的に見直しに行くことで議論が進んでいますので、そこを考えると試算表の意味が違ってくると思います。

前回「1ないし2校」は確認しましたが、その後を「以上」にするか「程度」にするかの結論が出ませんでした。その点について意見はありますか。

(委員) 私は断定的に決めた方が良いと思いますので「1ないし2校以上」が良いと思います。

(議長：小澤会長) 皆さんは10年後の児童数を見て考えが決まっていると思いますが、弾力的な運用となると表現が難しくなると思います。

(委員) 児童生徒が減る中で子供達のために統廃合し、現状の教育を維持するべきだという原点に立つと、通学路をどうするかは非常に難しい問題です。暫定的に旧町村に1校を残す中で高根、長坂については耐震を含めて検討し「1ないし2校以上」では現状でも良い事にはなりますが、弾力的な表現でも良いのではないかと思います。

- (委員) 具体的な運用になると1か2になると考えます。
- (委員) 旧町村に1校は置くという事が前提になっています。適正規模から若干離れる気がしますが、2校以上では現状維持とは行かなくなると思っていますので、「1ないし2校」という表現で良いと思います。
- (議長：小澤会長) 他に意見がなければ、「程度」や「以上」をなくした「1ないし2校」と言う形で答申します。
- (委員全員) 了承
- (議長：小澤会長) 続いて通学区域の問題ですが、前回申し合わせたとおり分科会形式で中学校再編を含めて議論を行いたいと思います。
- (委員) これを最終的な結論とすると前に出した結論と矛盾し、20人以上2クラスが意味を成さなくなります。あくまでも現段階として捉えていくのだと思いますが、単に「1ないし2校」では長坂・高根に理解されないと思います。「1ないし2校」の内1校は全く新しい学校を作っていくのだという事と、旧町村の壁を破るのだと言うことが前面に出てこない理解は得られないと思います。
- 長坂地区には古い歴史を持った学校もありますので、簡単に合併には賛成しないと思います。現在の固有名詞や地区名が出ている間は難しいと思います。北杜市西小学校というように新しく小学校を作っていくようにしていかないと理解は得られないと思います。
- 高根も同様です。北杜市東小学校、西小学校を作り、その地域でどちらの小学校を選択するかであれば強制的に通学区域を変えられる意識は薄らぐはずで、これは中学校においても同じだと考えます。
- (委員) 4校を2校にするのは難しいですが、3月に答申を出すのであれば10年先を見込んだ答申を出せば理解して貰えるのではないかと思います。学区を越えた議論をこの後実施すればよいと思います。
- (委員) 私は当面旧町村に「1ないし2校」、平成30年以降は見直すということで良いと思います。
- (委員) 統廃合された学校には新しい名前を付ける方針でよろしいでしょうか。
- (事務局) 新設校は新築でなく増改築で対応し、名称については既存の名称ではなく新しい名称を使う方向です。既存の学校に行くのではなく、新しい学校に行くという意識を持ってもらおうと思っています。
- (議長：小澤会長) 通学区域の観点から考えると、立地として良いかどうかは必ず出てきます。旧町村に則った立地であるため今日的にはそぐわないこともありますし、財政上の問題から既存の学校を利用し、新しい学校を作っていかなければならないため苦渋の選択があるだろうと思います。この審議会ではある程度の方向性を示した上で、平成30年度の最終結論までは弾力的に審議を重ねていき、旧町村意識を

払拭しながら進めていかないとかなり厳しいのではないのでしょうか。それぞれ歴史を背負っていますので、船をこぎながら改造していくように考えて頂ければと思います。

(委員) 主に長坂・高根かと思いますが、複数校が統合したときモデル校を作っていくようなことは如何でしょうか。

(議長：小澤会長) 名称問題も含めて、新たなスタートを切るときはモデル的なイメージを抱きながら議論を進めていかなければならないと思います。

それでは分科会に入らせて頂いてよろしいでしょうか。北杜市の地形的な要素を持った分科会として逸見筋・釜無筋・塩川筋の3つに分かれないと思います。それぞれの委員さんの数にばらつきがありますが、その中で座長を決めて頂き議事を進行してもらいたいと思います。

(事務局) 3地区の人数にばらつきがありますが、302会議室、大会議室が確保してあります。

(委員) 余りバランスを考えなくていいと思います。

(事務局) それでは、逸見筋はここで、塩川筋は302号会議室へ、釜無筋は大会議室でお願いします。それぞれ課長及び書記を付けますので、よろしくをお願いします。

(議長：小澤会長) それでは各会議室に移動し10分後に開始して下さい。傍聴者の方々は必要に応じて会議室に分散してください。会議終了は3時30分といたします。

—分科会終了後—

(議長：小澤会長) それでは再開します。武川筋の集約意見ををお願いします。

(進藤教育総務課長) 小学校は当面現状とし、長坂・高根が統合された後に全体を検討しながら統合する。中学校については大きい中学校として統合したいが、白州・武川だけの統合では規模が小さいため、逸見筋の統合と連携する中で統合していきたい。時間が掛かるようであれば白州・武川が先に統合しても良いのではないかとこの事でした。

(議長：小澤会長) 塩川筋の集約意見ををお願いします。

(委員) 小学校教育に関しては、少人数、多人数の賛否は半々であります。10年後には20人以上複数クラス以上にするならば1本化せざるを得ない結論です。増富小学校については10年後には児童がいないということで議論の対象となりませんでした。

北杜市には大きな道路が整備されておらず、スクールバスの現状を考えると児童の安全安心が確保されていません。これは市全体で審議しなければならない問題であり、できれば10年以内の完成を要望します。

最後に、この審議会は児童数が減少することを前提に学校数を減らす方向になっていますが、若手の人口増加のための努力をしていくべきではないかという意見もありました。

(議長：小澤会長) 逸見筋の集約意見ををお願いします。

(委員) 逸見筋については、平成25～6年を目標に小淵沢は現行の1校、大泉町は小泉小・秋田小・長坂小との絡みを考えながら1校。長坂町については泉小とのことを考えたうえで2校に統合することと、耐震の問題もありますので論議を急ぎ、耐震対策以前の論議もして頂きたいとの意見がありました。高根町については清里小を中期的に現状維持で残し、その他を1校に統合するという意見になりましたが、現状ではどこの校舎を使っても児童が入りきらないという問題が残ります。

(議長：小澤会長) 各分科会の意見を発表して頂きましたが、何か意見はありますか。

では、小学校については平成30年度までに旧町村に1ないし2校を維持していく。具体的には、長坂は当面泉小との兼ね合いを考えながら2校とし、高根は当面清里小を残し他を1校に統合していく、ということにまとめさせていただきますがよろしいでしょうか。

(全委員) 特になし。

(議長：小澤会長) 長坂小学校の耐震は早急に対策を講じる必要があるため、早急に検討して頂きたい事を付け加えさせていただきます。

では、次回から中学校の適正規模・通学区域の再編に移ります。小学校は学級を中心として児童同士がお互いをもみ合う事で育っていくという領域が強いのに対して、中学校の大きな特徴として生徒自体が自立の段階に入り、それに応じて教科指導が中心となっていきます。そのため、或る程度の規模が確率できないと教職員の配置が困難になるという課題を背負っています。同時に自立傾向にありますので、通学区域は小学校よりも広域にできるという側面も持っています。そのことを前提に議論を深めて頂きたいと思います。事務局宜しいでしょうか。

(事務局) お願いします。

(委員) 長坂小学校の耐震を急ぐというお話ですが、統合を前提に立て替えまで検討するということですか。

(議長：小澤会長) そこまでは決まっていません。

(事務局) 長坂小学校の校舎は危険な状態にあるため、統廃合の結論が出るまで使用するのではなく、速やかに仮設校舎等を検討するなり対策を講じるように意見が出た訳です。

(委員) 長坂については25～6年までに2校にするという集約が出ましたので、耐震を含め一緒に審議したほうがより効率的ではないでしょうか。

- (事務局) 事務局からどこの校舎を使用するかを決めることはできませんので、審議会でその部分も含めて審議して頂ければと思います。現状が危険な状態ですので早急に対策を講じなければと思っています。
- (議長：小澤会長) そこまでの議論はできませんでしたが、耐震の問題を早急に検討しながら統合について議論を進めて行きたいと思っています。よろしいでしょうか。
- (全委員) 了承
- (議長：小澤会長) 次回の日程はいつにしますか。
- (事務局) 第3週の木曜日2月19日で如何でしょうか。
- (委員) 答申は何時までに出すのですか。
- (事務局) 基本的には3月をお願いしています。3月下旬に答申内容を議して頂き、正副会長に提出していただくようお願いします。
- (小泉副会長) 当初の計画どおり審議は進んでいるのでしょうか。
- (事務局) あくまでも計画ですが、議会のない月に実施して来まして9回になります。10～11回位を目処にして頂きたいと思っています。
- (小泉副会長) 審議会と市民意見の調整は如何でしょうか。
- (事務局) ある程度審議の結論が出た段階で、保護者への説明会を実施したいと思っています。
- (議長：小澤会長) 次回から中学校の適正規模等を審議しますが、1回では十分審議できない場合には早急に再度開催しなければならないと思います。予備日があっても良いと思いますので、事務局で検討願います。
- (委員) 答申案が出た時点でホーム・ページ等を通じて公開し、意見を得るのも一つの方法かと思いますが如何でしょうか。
- (議長：小澤会長) 情報公開の時代ですから、様々な情報を公開していくべきだと思います。今後一層具体的になったときには、新たに2回目の審議会を開かなければならないと思います。
- (事務局) その都度情報公開はしておりますが、1回目の答申を頂き保護者にも説明をしていく段階で、2回目の審議会を発足しなければならない状況は出てくると思います。
- (議長：小澤会長) あくまでもこれは1回目の審議会と言うことで御理解いただきたいと思っています。
- それでは次回の審議会は2月19日(木)午後1時30分をお願いします。何か資料が欲しいという方がいましたら、事務局に請求してください。
- (委員) 各中学校の教室数・規模、またクラブ状況等の資料は出来るでしょうか。
- (事務局) 市内8中学校の施設内容がわかるような資料を用意します。
- (小泉副会長) 昨年暮れから今年に架け100年に一度の不況と言われていいますが、教育に関しては休むことなく一時たりとも気を抜けない状況

の中、皆様の貴重な意見である程度山を越えたと思います。
今日のご苦労様でした。